

みどりの食料システム戦略における薬剤耐性対策(動物分野)

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費者の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

4 具体的な取組

(2) イノベーション等による持続的生産体制の構築

①高い生産性と両立する持続的生産体系への転換

(スマート農林水産業の推進)p.9

- ・ 養殖における環境負荷の軽減(次世代型閉鎖循環式陸上養殖生産、大規模沖合養殖システムの開発、ワクチン開発・普及の加速化等抗菌剤に頼らない養殖生産体制の推進等)

(畜産における環境負荷の低減)p.10

- ・ 多機能で省力型の革新的ワクチンの開発
- ・ 迅速かつ的確な診断手法の開発など抗菌剤に頼らない畜産生産技術の推進

みどりの食料システム戦略

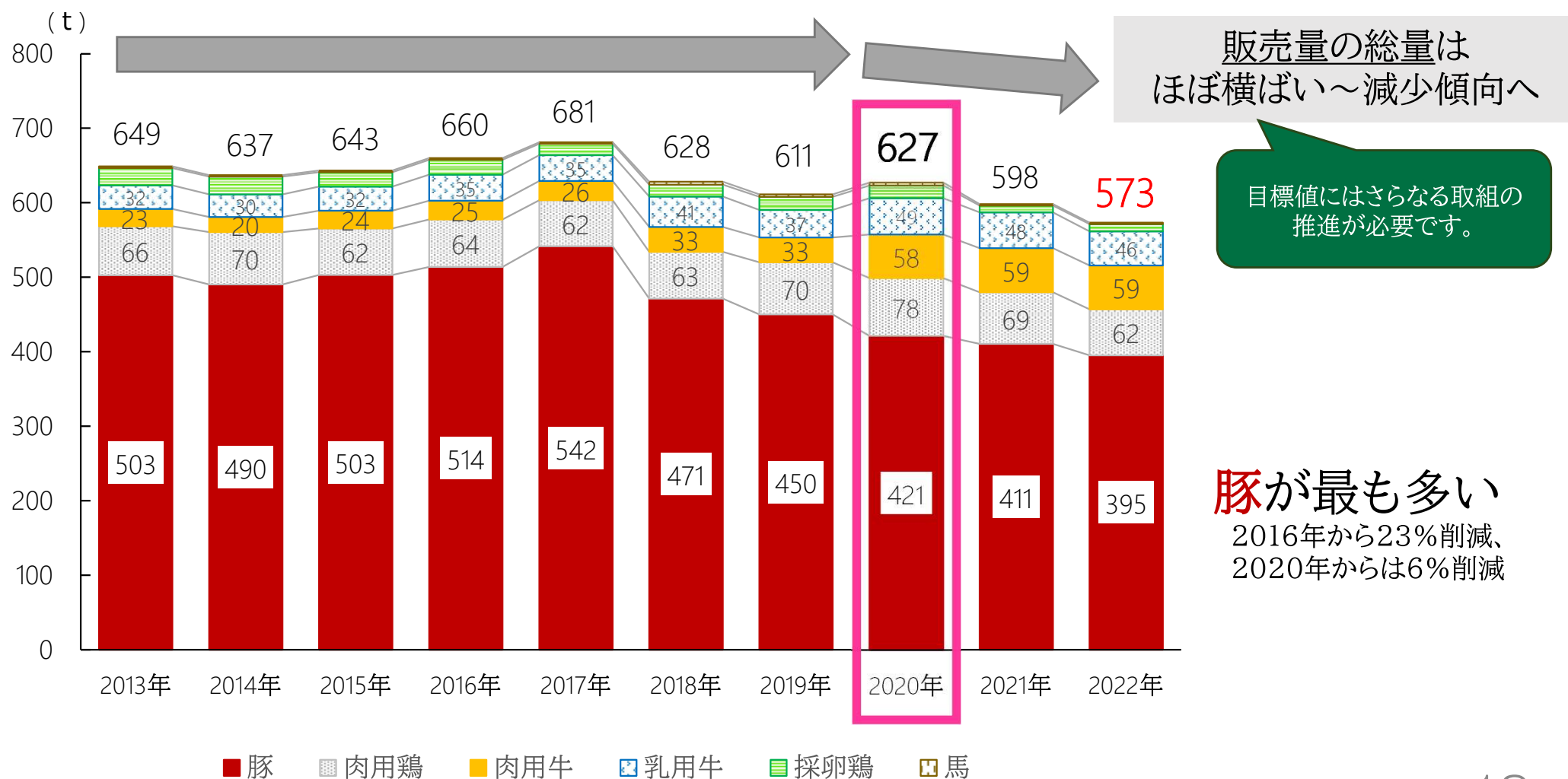
～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

(本体)

令和3年5月
農林水産省

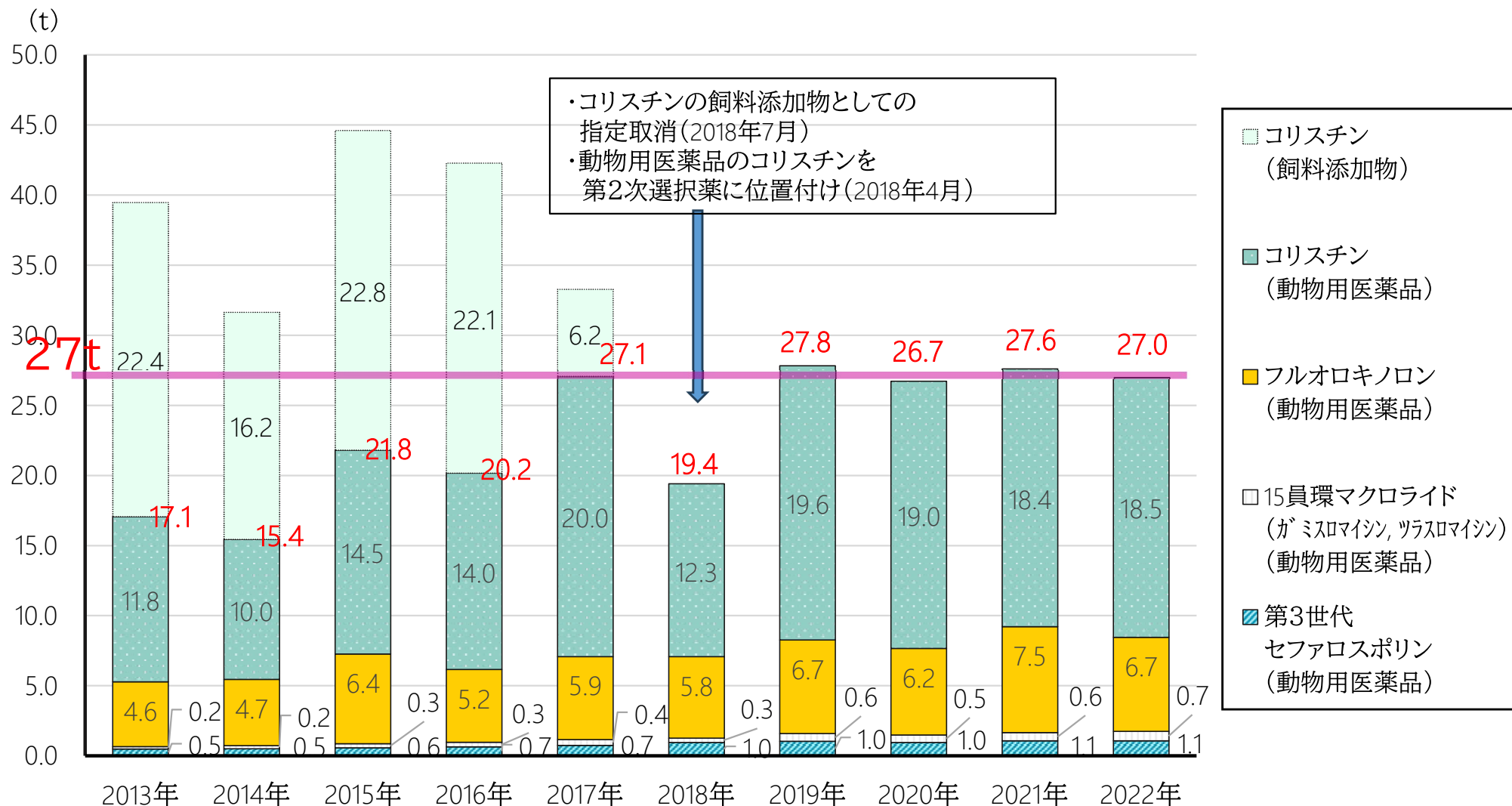
動物用抗菌薬の販売量の推移(家畜のみ)

- 豚が最も多いが、2017年をピークに削減。
- 肉用牛が増加を示している。
- 15%削減 (**532.7 t**、2020年比) のため、さらなる施策が必要。



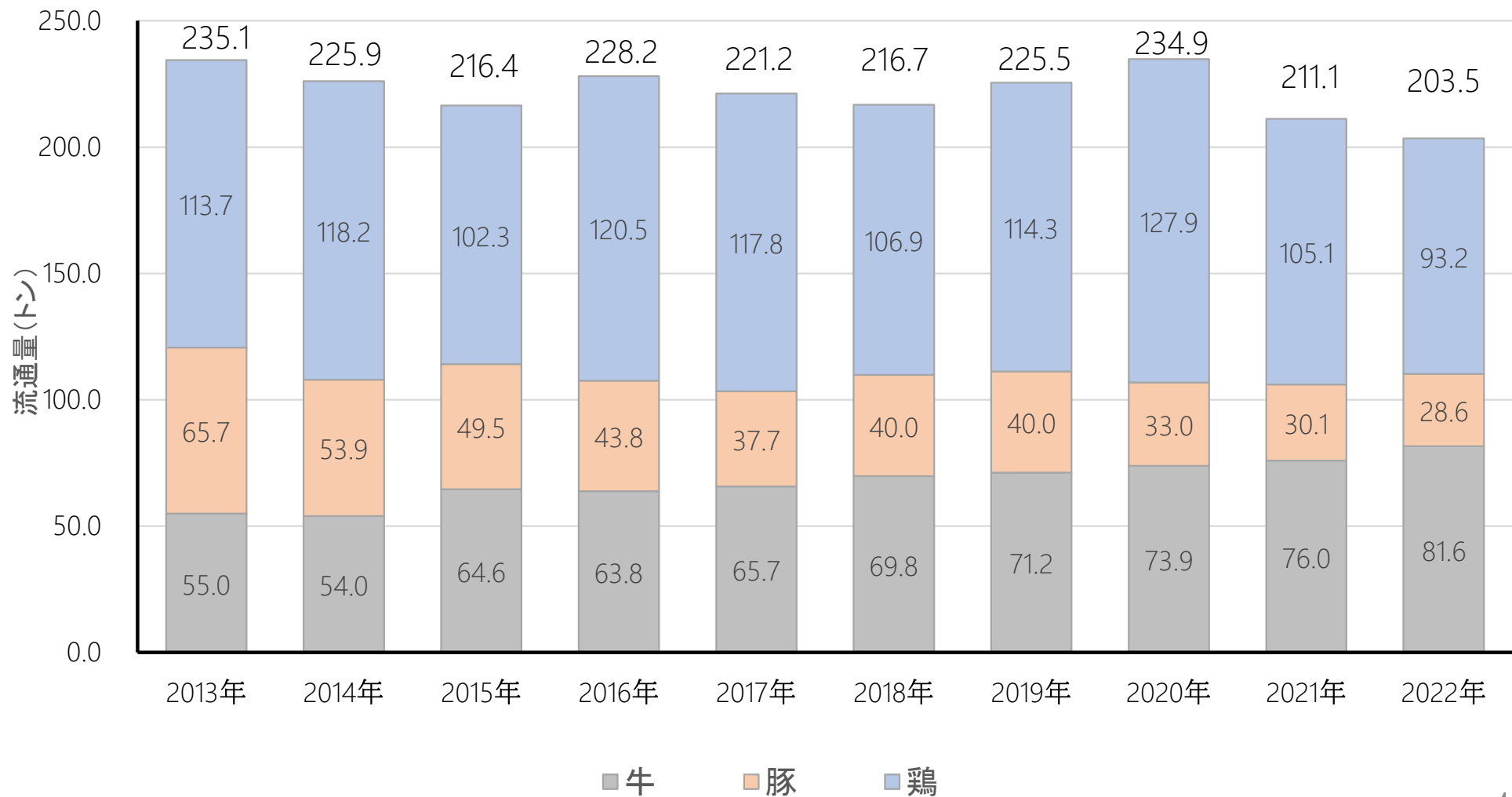
畜産分野における第2次選択薬販売量の推移

- 2019年以降、第2次選択薬の販売量は、27 tを超える量で高止まり。
- 最も多いのは、コリスチン製剤(飼料添加剤)で、次にフルオロキノロン製剤である。



抗菌性飼料添加物の流通量の推移(畜種別)

- 2013年以降、流通量総量に大きな変化はない。近年やや減少傾向。
- 流通量が多いのは、鶏用。



抗菌性飼料添加物の流通量の推移(種類別)

- 2013年以降、ポリペプチド系、テトラサイクリン系、マクロライド系の流通量は減少。
- 流通量が最も多いのは、ポリエーテル系(イオノフォア)。

